

## 平成 28 年 7 月 洪水(低気圧)による 中筋川の出水状況について

～中筋川ダムにより河川水位を低減～

**氾濫注意水位超過を回避**

- 中筋川ダム上流域の雨量  
累計雨量 = 208mm (7月8日5時～9日8時)  
**最大時間雨量 = 43mm (9日1～2時)**
- この豪雨により、中筋川は、水防団待機水位 (3.80m) を越える
- 中筋川ダムへの最大流入量(毎秒約 74 立方メートル)の 74%をダムに貯め、放流量を毎秒約 20 立方メートルに低減  
中筋川(磯ノ川地点)の**水位を約 46cm 低減させ、氾濫注意水位の超過を回避しました。**  
**横瀬川ダムがあった場合は、さらに約 18cm の水位低減効果が期待できた**と推測

平成 28 年 7 月 11 日  
国土交通省 四国地方整備局  
中筋川総合開発工事事務所

問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局 中筋川総合開発工事事務所

電話(0880)66-0142

副所長 坂本 雄彦 内線(204)

◎調査設計課長 宮地 正彦 内線(351)

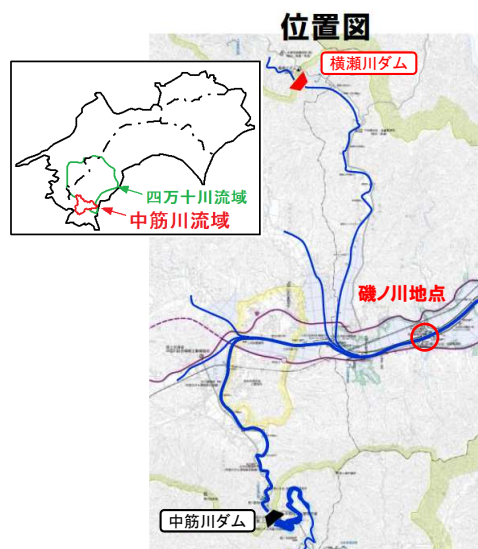
管理課長 江口 正則 内線(6121)

◎主な問い合わせ先

# 平成28年7月 洪水(低気圧)による出水状況 ～中筋川ダムにより河川水位を低減～

208mm(時間最大43mm)の雨

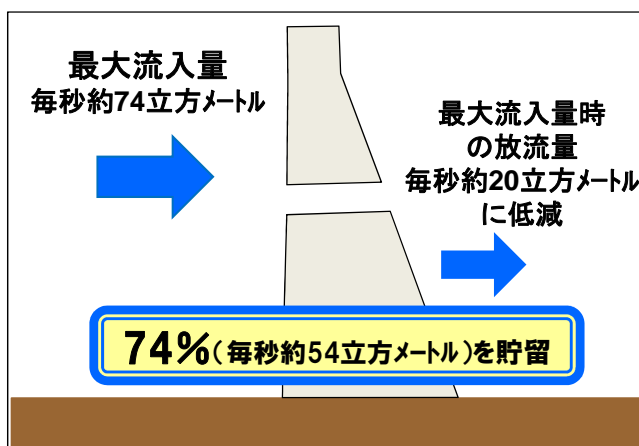
中筋川ダム上流域において、7月8日5時～7月9日8時にかけて **累計約208mm(時間最大43mm)**の降雨となりました。



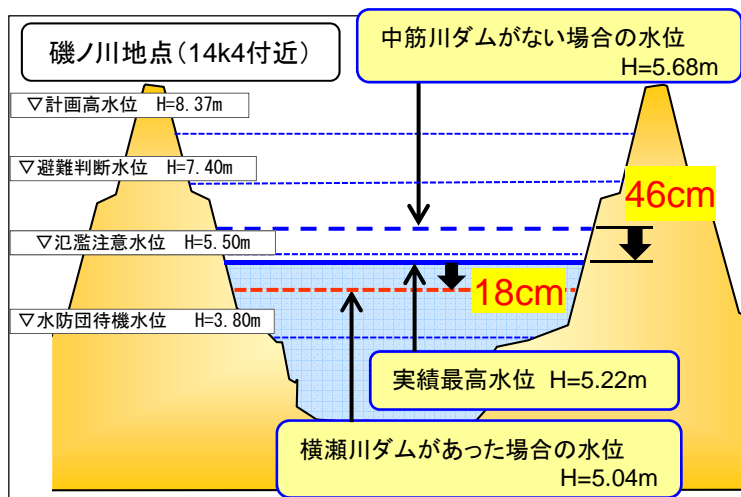
中筋川ダムにより74%を貯留

中筋川ダムへの最大流入量毎秒約**74立方メートル**の**74%を貯留**し、ダムからの放流量を毎秒約20立方メートルに低減しました。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したもの(承認番号 平23四複、第84号)を一部転記したものである。



中筋川ダムの防災操作状況  
(7月9日 4時00分)



※上記(H:量水標)の値に0.577mを加えた値が標高(m)となります。

中筋川ダムにより河川水位を低減

中筋川ダムの防災操作により、**磯ノ川地点で約46cm水位低減させ、氾濫注意水位(5.50m)の超過を回避しました。**中筋川ダムが無かった場合は氾濫注意水位(5.50m)を越える5.68mであったと推測されます。

※氾濫注意水位とは「住民に対し、氾濫に関する情報への注意を喚起するための水位」。

横瀬川ダムにより更に約18cm低減

横瀬川ダムがあった場合は**さらに約18cmの水位低減効果**が期待できたと推測されます。

※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。